

# 臨床検査に関するお知らせ

株式会社セントラル医学検査研究所 / No.2007-R03

先生各位

平成19年3月

## 検査内容変更のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、骨塩定量における報告形式を下記のごとく日本骨代謝学会骨粗鬆症診断基準検討委員会により発表された「原発性骨粗鬆症の診断基準」に準拠した形式に変更させて頂きたくご案内申し上げます。

又、変更に伴ない報告書も新基準対応へと変更となりますので何卒ご了承の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

実施日 平成19年4月2日(月)ご依頼分より

変更内容

項目コード	項目名称	変更内容	新	旧
39030	骨塩定量	報告形式	・ m - BMD 値 ・ Y A M % ・ 同年代比較値	・ m - BMD 値 ・ P e a k % ・ 同年代比較値

Y A M % : 性別の若年成人平均値(20~44歳)に対する実測値の%

P e a k % : 性別の基準値最大骨量に対する実測値の%

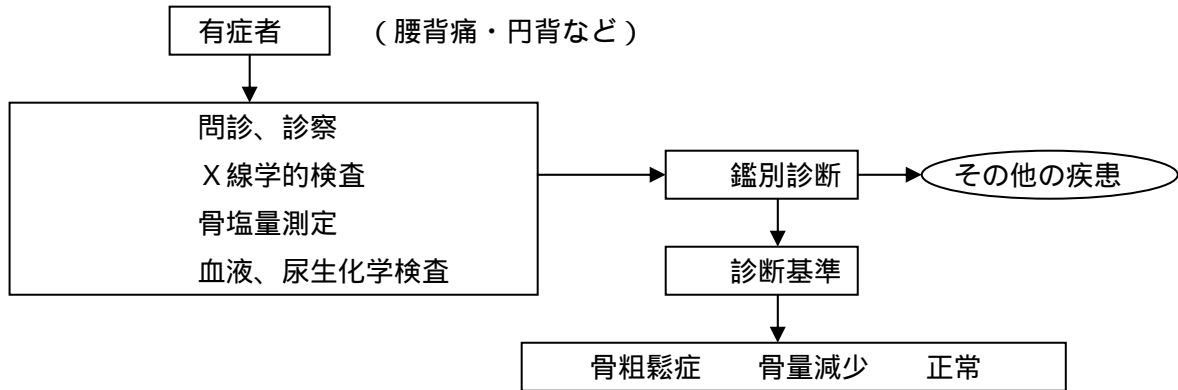
(裏面をご覧ください)

< 参考資料 >

原発性骨粗鬆症の診断基準 抜粋

(日本骨代謝学会 骨粗鬆症診断基準検討委員会)

【原発性骨粗鬆症の診断マニュアル】



【原発性骨粗鬆症の診断基準】

. X線上骨椎体骨折を認める場合		
低骨量 (骨萎縮度 1 度以上、あるいは骨塩量値が若年成人平均値 (YAM) の 80 % 以下) で非外傷性椎体骨折のある症例を骨粗鬆症とする		
. X線上椎体骨折を認めない場合		
	脊椎 X 線像	骨塩量値
正常	骨萎縮なし	
骨量減少	骨萎縮度 1 度	YAM の 80 % ~ 70 %
骨粗鬆症	骨萎縮度 2 度	YAM の 70 % 未満

(注) 骨塩量は原則として腰椎の骨塩量とし腰椎骨塩量の評価が困難な場合にのみ  
橈骨、第二中手骨、大腿骨頸部、踵骨の骨塩量値を用いる

\* 骨粗鬆症の診断は骨塩量結果と併せて他の臨床症状と総合的判断をお願い致します